

財団法人まちみらい千代田
平成25年度第1回理事会議事録

1 日 時

平成25年5月31日（金） 午前10時から午前10時45分

2 場 所

ちよだプラットフォームスクウェア5階501～502会議室

（千代田区神田錦町 3-21）

3 理事現在数 11名

4 出席者

（1）出席者（7名）

若林尚夫、金井義之、小田利隆、高橋陽子、立川資久、林勇、堀田康彦

（2）委任状提出者（4名）

小嶋勝衛、高木茂、高島豊徳、師岡文男

5 議 題

（1）議案第1号 財団法人まちみらい千代田理事長の互選について

（2）議案第2号 財団法人まちみらい千代田副理事長の互選について

（3）議案第3号 平成24年度財団法人まちみらい千代田事業報告について

（4）議案第4号 平成24年度財団法人まちみらい千代田収支決算について

（5）議案第5号 財団法人まちみらい千代田役員の報酬等に関する改定について

6 開会、挨拶、定足数確認、議事録署名人の選任

開会に先立ち、配布資料の確認と、先に行われた評議員会において、小田利隆理事、立川資久理事、金井義之理事及び乙幡千枝実監事が選任された旨報告し、小田理事、立川理事から挨拶があった。また、事務局職員が一部変更となったのでその紹介を行った。

定刻に至り、寄附行為第26条の規定により、理事会の議長は理事長があたることとなっているが、議案第1号において理事長が選任されるまでは議長が不在のため、事務局が進行を行う旨諮ったところ、全員異議なく了承され、本日の開会を宣言した。

引き続き、本日の出席者について事務局から寄附行為第27条の規定で定める定足数を満たしていることを報告し、本理事会が有効に成立している旨を告げた。

続いて、本理事会の議事録署名人として、堀田康彦理事と立川資久理事の2名を指名

したい旨を諮ったところ、満場一致の賛成があったので、両理事を指名し、本人もこれを承諾した。よって、議案の審議に入った。

7 議事の経過及び結果

(1) 議案第1号 財団法人まちみらい千代田理事長の互選について

事務局より、寄附行為第17条第2項の規定についての説明した後、引き続き若林理事を推薦する旨の発言があり、満場一致で異議なく議決し、本人も承諾した。

若林理事が理事長に選任されたため、寄附行為第26条の規定により、若林理事長が議長となった。

(2) 議案第2号 財団法人まちみらい千代田副理事長の互選について

引き続き、事務局から議案第1号と同様、寄附行為第31条第4項の規程に基づき、副理事長の選任について諮ったところ、若林理事長から金井理事を副理事長として推薦する旨の提案があり、出席理事も異議なく議決し、本人も承諾した。

(3) 議案第3号 平成24年度財団法人まちみらい千代田事業報告について

(4) 議案第4号 平成24年度財団法人まちみらい千代田収支決算について

議案第3号及び議案第4号は相互に関連があるので、これを一括して審議したい旨を諮ったところ、全員異議なく了承した。

配付資料に基づき、事務局から次のような説明を行った。

平成24年度についても引き続き「住宅まちづくり」「区民住宅の供給」「産業まちづくり」「普及啓発」の4つの事業を柱として事業を実施した。その中から主なものについて説明する。

「住宅まちづくり」事業では、マンションに関連した事業を中心に事業を展開した。これまでも東日本大震災を踏まえて防災に関する様々な取り組みを実施してきたが、今年度についても防災対策・震災時の対応をテーマとして「マンション管理セミナー」を2回実施した。区民の関心が高いこともあり、今後も区防災担当部署及び関係機関と連携しながら防災対策に関する事業を推進していく。マンション情報紙「マンションサポートちよだ」の発行については、前年度末に試行した全戸配布に向けた取り組みを本格的に実施した。戸別配布に協力を得られる管理会社が管理するマンションについて戸別配布を実施し、現在のところおよそ8,000部を個別

配布している。「マンションの維持管理支援」では、比較的早い時期に建設されたマンションの老朽化が進んでいるため、維持管理や大規模修繕等に関する相談が増加している。そのため、助成金やアドバイザー派遣の需要が増加した。今後も様々な支援について需要増が見込まれるため、財団としても大きな課題の一つとして認識し取り組みを進めていく。「再開発推進組織に対する支援」としては、需要増加が見込まれたため予算を増額したところ、実績についても増加する結果となった。

「区民住宅の供給」事業では、これまでどおり借上型区民住宅の管理運営を実施した。借上型区民住宅については契約期間が20年となっているため、契約期間満了を見据えて今後のあり方・継続性について区で検討を重ねているところであり、財団としてもその検討結果を踏まえ事業をどのようにしていくか方向性を明確にする必要があると考えている。

「産業まちづくり」事業では、中小企業の経営上の相談を受け付け、その解決のために最適な機関や制度を紹介する「マネジメントサポートデスク」を引き続き実施した。相談件数が34件となっているが、その他に電話での問い合わせを100件超受け付けている。「専門家の派遣」事業として公益財団法人東京都中小企業振興公社の専門家派遣事業に協力し、より少ない費用で中小企業が専門家の派遣が受けられるよう支援を行った。実績として派遣企業10社、派遣回数67回となっている。「千代田ビジネス大賞」は5回目の実施となったが、エントリー企業が21社ありその中から大賞等の受賞企業6社を表彰した。「千代田ビジネスプラットフォーム『Chibiz』の提供」についてだが、引き続き運用を行ってきたが5月に海外からの不正アクセスを受けたため現在閲覧できない状態となっている。現在、原因の調査や対策の検討を実施しているが、その結果を踏まえ今後のあり方等も含めて対応を検討する。

「千代田ビジネス起業塾」については今回で3回目となったが、引き続き開講した女性起業家向けの講座が非常に好評であった。起業塾については、受講生からステップアップのための講座の要望が寄せられているため、今後はそのようなフォローアップのための展開を検討する。また、「市町村サテライトオフィスの運営」では、秋田県五城目町が入居し12団体となった。4月からは新たに岩手県奥州市が入居している。

「普及啓発」事業では、第14回目となる「千代田まちづくりサポート」を実施したが、応募団体が5団体と減少したため、実施方法や今後のあり方も含めてさらに検討をしていく。「賛助会員の拡大」については、会費を値下げし会員としてご協力いただきやすくした。会費の見直しにあたり賛助会員の整理を行ったため、会員数としてはあまり変化はないが事業に関連した法人等を勧誘する等、少しずつ会員増加を図っている。

収支決算について、まず貸借対照表から見る財団の財務状況について報告する。短期的な支払能力は、流動資産が流動負債を上回っているため、経営は安定してい

る。固定負債については、職員の退職手当引当金と借上型区民住宅の入居者からの敷金預り金である。固定資産が正味財産を上回っているが、固定資産のほとんどが債券又は現金、預金となっており、減価償却が必要な固定資産は10,572千円である。返済の必要性のある負債を正味財産が大きく上回っているため、経営は安定していると言える。次に、正味財産増減計算書から見る財団の財務状況について報告する。債券等で運用している資産を時価評価で見直しを行ったところ、昨年度に比べ66,966千円の評価益となった。この要因としては債券の金利低下及び為替が円安になったこと等があげられる。また、今事業年度においても区からの補助金が借上型区民住宅事業に関するものみのため、運用資金の確保が重要課題となっていたが、経費削減や、職員数の減など支出の削減とともに、売却益の確保により財産運用が当初予算に比べ多かったため、経常増減額が29,810千円のプラスとなった。全体として、収益の増加と費用の減少による経常増減額を早期確保できる概ね安定した運営を行うことができた。今後も引き続き事業・経費の見直しを図り、効率的な財団運営を目指していく。

以上のように説明を行い、監事監査において承認されたことを報告し、出席理事に諮ったところ、全員異議なく議決した。

なおその際、次のような質疑応答や意見があった。

○サテライトオフィスに、4月1日入居予定となっている奥州市は入居したのか。
(事務局)

入居している。

(3) 議案第5号 財団法人まちみらい千代田役員の報酬等に関する規程の改定について

配付資料に基づき、事務局から次のような説明を行った。

財団の役員報酬については、千代田区関連団体役員の報酬基準に基づき毎年改定しているものであり、今年3月末にこの基準が改定となったことから、副理事長の報酬を引き下げるものである。

この提案を出席理事に諮ったところ、全員異議なく議決した。

8 閉 会

以上をもってすべての審議を終了したので、午前10時45分に議長は閉会を宣言し、解散した。

上記の決議を明確にするため、議長及び議事録署名人2名がこれに署名、押印する。

平成25年5月31日

財団法人まちみらい千代田
平成25年度第1回理事会

議 長 若 林 尚 夫 ⑩

議事録署名人 堀 田 康 彦 ⑩

議事録署名人 立 川 資 久 ⑩